

第三者評価結果（乳児院）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 22 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45 項目）

評価対象 I 養育・支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 法人の理念「隣人愛 ～すべての人々を大切に～」が明文化され、それを踏まえて、2つの基本方針が明文化され、具体的な指標として、「 か 語り合おう」「 が 学習しよう」「 や 優しい心と柔らかな態度で」「 き キラキラした子ども達の目の輝きを大切に」という4つの職員の心得が明文化されている。内容から施設の支援の方向性が読み取れる。平成28年度改正の児童福祉法に明確化された理念も今後、織り込んでいく方針である。職員への周知については、申し送りや職員会議等で施設長から話がある他、新人研修の際、具体的に、わかりやすく説明され全員に周知されている。保護者への周知については、保護者の状況に応じた説明やパンフレットやホームページを通して情報発信している。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 施設長は全国乳児福祉協議会の役員を務めており、福祉政策動向について情報収集を行い、運営について課題を把握している。その他、福祉動向については行政情報やインターネットから収集したり、各種研修に参加する等して情報収集に努めている。地域団体会議に参加し、地域のニーズ把握に努めている。会計事務所による定期的な指導やコスト分析が行われている。		

③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>コスト分析、理事会資料等、施設経営に係る諸帳簿を職員が閲覧できるような体制は整えているが、職員間で経営課題を話し合うまでには至っていない。施設として子育て支援は社会的使命であるという考えのもと、経営的観点からのアプローチは馴染みにくいという思いも持ちつつ、経営にあたっては、周辺業務の効率化や経費の節減等、経営の効率化に取り組んでいる。今後とも、職員参画のもと経営体質の強化に向けた取り組みに期待したい。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>乳児院をめぐる制度変動や経営課題を踏まえた中・長期的ビジョンを策定している。中・長期を睨んだ大枠でのビジョン（子ども生活環境見直しや建物改築、子供の主体的な成長を支援、働きやすい職場づくり、人材育成と資質向上、地域支援の充実と地域との連携強化）はできているが、経営全般に渡る具体的な計画として明確化されていない。措置型の施設として数値目標を掲げることは本来の使命からすれば馴染みにくいことであるが、今後、予算に裏付けされた経営全般に渡る具体的な計画の策定に向けた取り組みに期待したい。</p>		
⑤	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>事業計画は、中・長期計画を踏まえ、経営状況を分析し、児童福祉制度動向や変化するニーズを把握し、施設を取り巻く地域性を反映させ、各年度単位で予算を伴った経営全般に渡る法人全体の事業計画を、前年度の事業報告を踏まえて策定している。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
⑥	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>計画の策定にあたっては、毎月の各会議、全体会議で職員参画のもとに振り返りを行うと共に評価・見直しが行われ、次年度計画に反映されている。年度末には各職員の振り返りの総括をまとめ、次年度への課題としている。</p>		
⑦	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・㉑・c

<p>＜コメント＞</p> <p>事業計画等、周知してほしい事項については、入所時や新年度に配布して保護者の状況に合わせて説明をしている。ホームに来所できない保護者には、子ども相談センターを通じてやり取りしている。しかし、乳児院をはじめとして、多問題を抱えた接近困難な家族へのアプローチを必要とする社会的養護施設業界の実情を考えれば、保護者等への周知徹底は難しいと言わざるを得ない現状がある。</p>	
--	--

I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	Ⓐ・b・c
<p>＜コメント＞</p> <p>施設全体で自己評価を実施しており、今年度は第三者評価を職員全員で実施し、共有化をしている。職員、リーダー等の各レベルの職員会議で協議し、振り返りをして改善すべきことを挙げて、次の実践につなぐ一連のPDCAサイクルができています。毎年、自己評価をまとめ、結果を職員に返して周知を図っている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	Ⓐ・b・c
<p>＜コメント＞</p> <p>自己評価・第三者評価は職員参画のもとで実施し、分析や課題の明確化について組織的に取り組んでいる。とりわけ、日々の養育についての評価、検討する場が位置づけられ、計画的に継続実施している。解決困難な課題や長期的な観点から取り組まなければならない課題もあり、改善課題の全てがすぐ改善できるものではないが、優先順位をつけて改善に向けた取り組みを行っている。</p>		

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	Ⓐ・b・c
<p>＜コメント＞</p> <p>施設長は全国乳児福祉協議会の役職に就いており、施設運営経験に培われた知見や信念を有している。自らの役割と責任を、職務分掌等で明示するとともに、職員会議等で自らの経営理念、運営方針や役割と責任を職員に表明し、職員全員に理解を促している。</p>		

11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>法令遵守に努め、全国乳児福祉協議会の会議や各種研修会にも積極的に参加し、職員会議や研修を通して職員への周知を図る等、職員のコンプライアンス意識を高める取組みを行っている。</p>		
Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームの養育、支援の課題や問題点を把握し、評価分析を行っている。また具体的な取り組みについて情熱をもって職員に助言や指導を行う等、養育・支援の向上に向けてリーダーシップを発揮している。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>施設長は、運営上の課題を明確化し、職員会議等を通して改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。しかしながら、措置型施設の性質上収入については経営努力の範疇外であり、経費節減が必要となる中で、開設後15年が経過した施設の修繕積立その他人事・労務・財務上の多くの課題がある。制度変動期にあつて、今後も、施設経営を取り巻く環境変化を読みにくい状況ではあるが、継続して経営体質の強化に向けた取り組みに期待したい。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>人口動態からも全国的に慢性的な人手不足の状態であり、とりわけ福祉業界においては、人材確保が困難な状況が続いている昨今であるが、あらゆるチャネルを通じて計画的に採用活動を行っており、計画的な外部研修への参加や園内研修の実施等、職員の教育研修に力を入れているとともに、日常的な業務の中での指導等を通じた定着支援に努めている。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>就業規則や給与規定等は整備されているが、人事考課の客観的な基準の整備が十分ではない。年功による序列ではモチベーションを高めていくことが困難であることから、職位による職務表で各自が、</p>		

<p>どのように期待されているかを把握できるようになっている。職員が長く勤めていくために必要な仕組みについて課題がある。今後、職員が自身の将来のキャリアモデルを描けるよう、法人の人事管理システムの整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント> 正規職員・非正規職員共に有給休暇や時間外労働について定期的に確認する他、個別面談やミーティングを通して就業状況を把握している。有給休暇の完全消化や子育て対策等、ワークライフバランスのとれた働き方の実現について配慮した勤務環境の実現が今後の課題である。</p>		
<p>Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p>		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント> 職員一人ひとりが職務の重要性を認識していくことの大切さを理解するよう、職員個々で丁寧な振り返りを実施し、助言指導を行っている。今後、職員個々の目標設定、業務実践のアセスメントを通じて、能力開発に資する目標管理制度に向けた取り組みに期待したい。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a ・b・c
<p><コメント> 事業方針の中で、研修会への積極的な参加やケース検討会等の充実が明示されている。研修の年間計画が策定され、その中で、職位別・職種別の研修や様々な外部研修が実施されている。全国乳児福祉協議会の研修体系をベースにした研修が実施されており、例えば、ビデオを撮って自分を振り返る材料としたり、公開保育を実践する等、保育力の向上に向けた取り組みを行っている。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・ b ・c
<p><コメント> 職位別・職種別の研修計画を策定し、実施している。外部研修参加に加え、事業所内での研修会を開催している。研修受講後、研修内容の伝達講習を行う等、職員への周知を図り、今後の研修計画の見直しに反映させている。また日常的な業務を通じて個別のOJTを実施している。今後、職員個々に着目した個別研修計画の策定に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a ・b・c
<p><コメント></p>		

実習生の受け入れマニュアルを整備し、その意義や基本方針について職員会議で周知している。当園の使命として積極的な受け入れを行っており、毎年、多くの実習生を受け入れている。受け入れにあたっては、窓口を設置し、養成校と連携しながら、事前のオリエンテーション、実習後のカンファレンスを通して振り返りを行い、次年度の受け入れに反映させている。実習生の受け入れは、職員の資質の向上にもつながるので、丁寧な実習指導を行っている。初めての実習生を受け入れる職員には、経験豊富な職員が付き、見守り指導をするという方法を取り入れる等、職員研修の大事な機会の一つとして捉え、丁寧に行われている。

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 施設のパンフレット、通信やホームページを活用し、理念、施設紹介、事業内容、事業計画や報告等を公開している。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 公認会計士事務所による定期巡回指導を受け、事務、経理、取引等についてルール化している。		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 事業方針に地域との交流を明記し、学園行事や地域行事に相互参加する等、地域に向けて積極的な働きかけを行っている。今年度は「中津川子育てサロン」で施設の会館を活用し、職員が親子遊びを提供する取り組みを行っている。		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 注意事項や守秘義務等を明記したボランティア受け入れマニュアルを整備し、積極的に受け入れをしている。本の読み聞かせや掃除洗濯等で定期的に来られる方や学生の見学や自主実習も含めて様々な受け入れを行っている。		

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの生活環境を広げるため、学校、幼稚園、福祉相談室、教育委員会、保健センター等、様々な機関と連携を行っている。また要保護児童対策地域協議会への参加を通して関係機関との連携を密にしている。今後、民生児童委員との連携強化を図っていくとのことである。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 施設が有する機能を地域に還元している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>地域の拠点施設として施設スペースや機能の専門性を活かして市の子育てサロンや子どもフェスティバル等の実施を通じて、施設機能を地域に還元している。また災害時の地域の避難場所となっている他、地域行事への参加を通じて地域活性化に貢献をしている。今後とも、さらなるニーズの掘り起こしを通して、連携強化に向けた取り組みに期待したい。</p>		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>社会福祉法人改革の流れの中で、今後、社会福祉法人の使命として、公益的な事業活動がますます重要になってくる。公益活動はこれからの分野であるので、地域の子どもの拠点施設として地域のニーズを捉え、例えば、施設の持つ専門性を活かし、手作りおもちゃ、片付けや収納の整理、保育・養育技術、離乳食等、日常的に業務の中で培われている施設の専門性を提供できる方策を検討する等、今後この分野での活動の拡充に向けた取り組みに期待したい。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>基本方針に子どもを尊重するという基本姿勢を示している。毎月のグループ会議で乳児院倫理綱領、子どもを尊重した養育支援について読み合わせ、意見交換を行っており、養育の在り方を振り返ることで共通理解をしながら、子どもの最善の利益を目指して子ども本位の養育・支援に努めている。</p>		

29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援提供が行われている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>養育マニュアルにて、子どもの写真の取り扱い、掲示の仕方や子どもの記録を保管しているUSBの管理のルールを決めて対応している。また入浴や排せつ等の生活場面におけるプライバシー保護について会議で取り上げて話し合う等、子どものプライバシーが守られるよう配慮した養育・支援に取り組んでいる。</p>		
Ⅲ-1-(2) 養育・支援の提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 保護者等に対して養育・支援選択に必要な情報を積極的に提供している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>養育・支援内容・設備等が記載されたパンフレットを作成し、またホームページに掲載している。保護者にはパンフレット等の資料を用いて、保護者の状況により伝え方等を配慮しながら丁寧に説明する等、情報提供に努めている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>入所時には安心感を持てるよう丁寧に説明を実施している。保護者の一部には同意と自己決定ができない方がいる。意思決定が困難な保護者等に関しては、子ども相談センターの担当者と確認のうえ、対応を協議し、決定している。保護者によっては入所の際にも来園されず、面会等もほとんどないケースが増加している傾向にある。また養育拒否がある保護者への対応も課題の一つである。子ども相談センターに情報提供をお願いしているが、なかなか接触できないケースもある。面会になかなか来られない保護者には、子どもの様子を定期的に便りを送付する等して丁寧に伝えている。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>養育・支援について、措置変更や地域・家庭への移行等にあたり、移行先や地域の関係者と連携し、養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。また「退所にあたって」の文書、アセスメントシート、アルバム等を作成し、丁寧に伝えている。行事案内を送る等、保護者の要望に合わせて退所後の交流も大切にしている。退所後も学校の発表会等へ参加し、子どもの成長を見守る取り組みもしている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p>		

<p>子どもの最善の利益を目指して子どもの満足の向上に努めており、グループ会議等で意見交換する等、乳幼児の満足度を検討する取り組みを始めた。関わりや環境整備を検討、実践している。改善すべきことは定期会議を待たずにタイムリーに対応する努力を行っている。</p>		
<p>Ⅲ-1-(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。</p>		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>意見箱を設置し、マニュアルを整備し、第三者委員を設置する等して苦情解決の仕組みを整備している。苦情解決体制を廊下の通路の壁面に掲示し、周知に努めている。保護者等に対しては、面会や外泊後に面談する時間をつくる等して、意見や要望が出やすいよう工夫している。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者の誕生日に手作りカードやプレゼントを贈る等、親子のきずなを深める様々な取り組みを行っている。来訪時際には、ゆっくりと話ができるよう面接室を用意し、担当者を配置している。また、最近の子どもの様子やエピソード等、事前に伝えることを準備して、保護者が意見を述べやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>養育マニュアルが整備され、保護者からの相談や意見に対して、家庭支援専門相談員や主任につなぎ、きちんと判断して伝えられる体制ができています。家庭支援専門相談員を中心に個別対応職員、心理職員、基幹的職員、担当保育士等様々な職種がチームを作って迅速に対応している。</p>		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の提供のための組織的な取組が行われている。</p>		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>安全安心な乳幼児ケアのため、細かなリスクについても情報の共有を丁寧に確認し合っている。看護師を中心にしてインシデント・アクシデントやヒヤリハットの報告、集計を行い、毎月のグループ会議、看護師会議で検討、改善点についての話し合いしている。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>看護対応マニュアルを整備し、感染予防や発生時の対応に関する研修を受けている。また看護師を中心にして、嘱託医の指示を仰いで、対応する体制ができています。発生時の対応を実際に学ぶと共に隔離の対応ができる体制も整えている。</p>		

39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>防災対策マニュアルを作成して定期的に避難訓練、想定訓練を実施している。また地域の防災訓練と施設の総合防災・炊き出し訓練を実施する等して、地域との協力体制ができている。非常災害備蓄品の入れ替えを定期的に行っている。夜間の場合、少ない職員でどのように乳幼児を避難させるかが課題である。さらなる工夫に向けた取り組みに期待したい。</p>		

Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が提供されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>個々のサービスの標準的な実施方法については、乳児院養育指針、養育マニュアル、事業計画を全職員へ配布し、職員間で読み合わせする等して周知を図っている。職員の経験や背景によって理解に差異が見られることがあり、繰り返し確認を行う等、意識化に向けた取り組みに期待したい。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>総括にて養育マニュアルの振り返りを行い、各種会議を通して見直しや次年度課題について話し合いが行われている。また子どもの様子や成長、課題を心理職も交えて各会議で話し合い、自立支援計画書の見直しに反映されている。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより養育・支援実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な養育・支援実施計画を適切に策定している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもについてニーズを明らかにするため、施設で統一された様式を用いてアセスメントを行い、子ども相談センター、家庭支援専門相談員、心理職員等関係者の参加も求め、ケースカンファレンスを開いて自立支援計画を作成している。日々の生活の中で様子をモニタリングし、毎月のグループ会議に施設内の栄養士、調理、心理など各々の立場から意見をもらう等、話し合いを通じて情報の共有化を行っている。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に養育・支援実施計画の評価・見直しを行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p>		

乳幼児期における子どもの成長発達が著しいため、自立支援計画はケース記録と合わせた形式で毎月提出するようしており、状況変化に応じて随時、速やかな見直しを行っている。

Ⅲ-2-(3) 養育・支援実施の記録が適切に行われている。

44

Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。

㉠・b・c

<コメント>

5領域を意識し、養育・支援実施状況の記録は標準化されている。記録内容に差異が生じないように記録方法についても指導を行っている。毎月グループ会議を開催し、会議録の回覧やメール配信を活用して、職員間で情報が共有化されている。

45

Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。

㉠・b・c

<コメント>

子ども一人ひとりの記録は、適切に保管されている。記録の個人情報保護の取り扱いなど養育マニュアルの中に明記し、職員への周知に心がけている。保護者に対しては写真の取扱い等について同意を得るようにしている。

内容評価基準（22項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>グループ会議やカンファレンス等で日々の養育・支援を振り返り、改善していく機会を設けている。また毎月の会議の中で倫理綱領の読み合わせを行っている。養育・支援の向上のため研修では一人一回は課題を提出し、それについて全員で話し合い、検討している。</p>		
A-1-(2) 被措置児童等虐待対応		
A②	A-1-(2)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めするような行為を行わないよう徹底している。	㉑・c
<p><コメント></p> <p>入職時には虐待が「就業規則」で懲戒の対象になることを職員に確認し、マニュアルを定期的に読み合わせ、学習会、研修で職員の意識を高めている。</p>		
A③	A-1-(2)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもに対する不適切な関わりを事前にチェックできるよう研修や会議で話し合い、早期発見・早期対応に努め、不適切な対応に至らないよう取り組んでいる。また、子どもとの関わりを巡って職員の困りごとや悩みごと等が相談でき、職員が一人で抱え込まないような支援体制ができています。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>ガイドライン、対応マニュアルは整備されている。職員の経験年数によってマニュアルの理解に浅い、深いが生じているので、職員会議等で定期的に確認する機会を設ける等、職員の理解の均質化に向けた取り組みに期待したい。</p>		

A-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑤	A-2-(1)-① 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>日々の生活の中で月齢や子どもひとり一人の発達に応じて、子どものしたいことや、して欲しいこと等、気持ちや要求を受けとめ、スキンシップを大切にして愛着関係を築くよう努めている。子どもにとって「良いこと」を一番にしたケアを検討しながら養育に取り組んでいる。</p>		
A⑥	A-2-(1)-② 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>家庭的な雰囲気意識してゆったりとした空間の中で子どもたちの主体性を尊重した様々な体験の機会を作っている。例えば、手づくりおやつを子どもたちの希望に沿って一緒に作ったり、食事のトッピングを子どもたちが自由に行う等計画している。年齢の高い子は自分の衣服を自由に選んだり、自分のおもちゃで誰にも邪魔されないで遊べるよう部屋が用意されている。また地域家族キャンプ(横川溪谷キャンプ)や子どもフェスティバル等、社会性を身につける機会も作っている。</p>		
A⑦	A-2-(1)-③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>入所以前の子どもの発達状況、家庭・生活環境等を把握し、子どもの発達状況や生活状況に応じて柔軟に養育に取り組んでいる。子ども一人ひとりの状況について全職員が情報を共有し、養育マニュアルに基づき、統一的な意識のもとで適切な関わりに努めている。</p>		
A-2-(2) 食生活		
A⑧	A-2-(2)-① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>個人差を十分に配慮し、スキンシップを大切にしながら安心して授乳できるよう努めている。</p>		
A⑨	A-2-(2)-② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>子ども一人ひとりの咀嚼や嚥下の状況を観察し、栄養士、調理員と担当者で一人ひとりの状態に合わせた内容の離乳食を工夫して進めている。話し合った内容を文書化し、職員間で情報を共有している。また噛む力を養うために職員の種類や調理方法を工夫しているが、さらに誤えんにならないよう安全性に留意しつつ、工夫に向けた取り組みを考えているとのことであるので、今後の取り組みに期</p>		

待したい。		
A⑩	A-2-(2)-③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>調理室近くの部屋に食事をするスペースがあり、調理する音や食事の良いにおいが漂い、食欲をそそる環境で、その中で職員も一緒に食事を楽しんでいる。栄養士や調理員も食事介助に入り、食事の様子や子ども一人ひとりの様子を見ながら調理に活かしている。幼稚園児のお弁当や誕生日の食事は子どもたちの希望を取り入れて作られている。子どもの体型に合わせて椅子や足台、固定用具を用意し、子ども一人ひとりの座位に合わせて調節している。また食器も子どもひとりの食器を用意している。</p>		
A⑪	A-2-(2)-④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>「食育」の取り組みとして白玉団子、ホットケーキ、焼き芋等を作り、調理をする楽しみも経験できるように配慮している。職員が検食をすることで、食事の味やバランスを見て、調理員に伝え、今後の献立の改善点に活かしている。</p>		
A-2-(3) 衣生活		
A⑫	A-2-(3)-① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの個別の衣類は、子ども専用のタンスに収納し、年齢の高い子は好きな衣服を選ぶことができるように用意してある。年齢ごとに季節に合わせた衣類を常に準備している。</p>		
A-2-(4) 睡眠		
A⑬	A-2-(4)-① 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>静かで安心して眠れる寝室がある。室温、湿度の保ち方についてのマニュアルを作成し、適切な室温・湿度の調整を行っている。快適に十分な睡眠がとれるよう添い寝やおんぶ、抱っこをしながら入眠を促している。また入眠前に絵本の読み聞かせをして自然な入眠を心がけている。特に未満児の敷布団は硬めの物を用意したり、15分ごとに見回り、安全なチェックを行っている。</p>		
A-2-(5) 入浴・沐浴		
A⑭	A-2-(5)-① 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>お風呂のおもちゃを用意したり、幼稚園児には自分で身体が洗えるように促す等、年齢に合わせた</p>		

<p>入浴方法や関わりをしているが、現状の職員配置では子どもの発達の状況に応じた対応が困難とこのことであるので、一緒にリラックスして入浴できる機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(6) 排泄</p>		
<p>A⑮</p>	<p>A-2-(6)-① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。</p>	<p>a・b・c</p>
<p>＜コメント＞</p> <p>トイレを好きな壁面で飾る等して排泄に関心を持てるような配慮を行っている。排泄に関して全職員が統一した考えのもとで関わりを持つよう心がけている。さらに男の子の発達に応じたトイレ指導ができるような設備を整えていきたいとのことであるので、今後の取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(7) 遊び</p>		
<p>A⑯</p>	<p>A-2-(7)-① 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。</p>	<p>a・b・c</p>
<p>＜コメント＞</p> <p>おもちゃの部屋では、子どもたちが種類別におもちゃを片付けられるように、おもちゃを片付ける位置を示したカードを作成している。子どもたちはそのカードを見本に定められた位置にきちんと片づけができるようになっている。施設は自然に恵まれ、戸外で自然に触れながらのびのびと遊ぶことができる環境にある。またクッキー等のおやつ作りも積極的に取り入れ、食材のにおいや手触り、味を楽しんでいる。</p>		
<p>A-2-(8) 健康</p>		
<p>A⑰</p>	<p>A-2-(8)-① 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。</p>	<p>a・b・c</p>
<p>＜コメント＞</p> <p>日常的な子どもの養育支援を通して、子ども一人ひとりの様子を観察し、異常をすぐ発見できる体制ができています。看護師は担任との連携を図り、毎月の看護師会議を通して子ども一人ひとりの健康状態を話し合い、日々の健康管理に努めている。異常を発見した場合は、症状について嘱託医にファックスで伝える等して指示を受ける等、連携に努めている。</p>		
<p>A⑱</p>	<p>A-2-(8)-② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。</p>	<p>a・b・c</p>
<p>＜コメント＞</p> <p>子どもひとり一人の健康状態の変化について常に把握できるよう、日頃から観察に心がけ、毎日の申し送りで健康状態について職員と共有している。薬の保管は看護師が責任者となり、予薬表を基に厳重に管理している。薬の種別で色分けしているので、誤与薬防止につながっている。緊急の場合は迅速な対応ができるよう、病・虚弱児についても嘱託医との連携体制が整っている。</p>		
<p>A-2-(9) 心理的ケア</p>		

A⑱	A-2-(9)-① 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	a・ ⑬ ・c
<p><コメント></p> <p>心理職は常勤で配置され、心理療法や生活場面観察等、心理的ケアを行っている。またグループ会議やケース検討会議に出席し、専門職の立場からコンサルテーションを行っている。親子支援も視野に入れて、心理的な支援プログラムを計画的に策定し、心理職を活用した支援に取り組まれない。また保育士と心理士の協働した支援に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(10) 施設と家族との信頼関係づくり</p>		
A㉔	A-2-(10)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	⑭ ・b・c
<p><コメント></p> <p>家庭支援専門相談員を配置し、フェスティバルや運動会、夏祭り、キャンプ等、園の行事に積極的に参加してもらうよう働きかけ、子どもとのふれあいを通じて信頼関係づくりに努めている。また機会を捉えて、声かけをする等し、相談に応じている。</p>		
<p>A-2-(11) 親子関係の再構築支援</p>		
A㉕	A-2-(11)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	⑮ ・b・c
<p><コメント></p> <p>親子関係の再構築のため、自立支援計画を策定し、子ども相談センター等関係機関と連携し、家庭復帰に向けて家族支援に取り組んでいる。</p>		
<p>A-2-(12) スーパービジョン体制</p>		
A㉖	A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。	⑯ ・b・c
<p><コメント></p> <p>経験年数の少ない職員が問題をひとりで抱え込まないように、常に経験の豊富な職員が支え、助言し、保育力の向上と一緒に取り組んでいる。また先輩職員は力量アップのための研修、セミナー、会議等に参加している。心理職員は毎月、外部専門家のスーパービジョンを受けている。</p>		